

第1類医薬品

医薬品を正しく購入するための
説 明 文 書

ロキソニン®S



使用前には必ず添付文書をお読み下さい。

1	名 称	ロキソニン S (LOXONIN S)
2	成分・分量	1錠中 ロキソプロフェンナトリウム水和物 68.1mg (無水物として 60mg)
3	用法・用量	このお薬の使い方は？ ○服用量および回数  ポイント 成人(15歳以上)は、症状があらわれた時、1回1錠をなるべく空腹時をさせて、水又はぬるま湯で服用します。通常1日2回までとして下さい。再度痛み等の症状があらわれた場合には3回目を服用することができます。 服用間隔は4時間以上あけて下さい。 ※服用に際しては、製品に同封されている説明文書を必ずお読みの方え、用法・用量を守って、正しくお使い下さい。 ○どのように飲むか？ コップ一杯程度の水又はぬるま湯で飲んで下さい。 ○多く服用した時(過量服用時)の対応 誤って多く服用した場合は、医師、歯科医師又は薬剤師に相談して下さい。
4	効能・効果	このお薬の効果は？ ○このお薬は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤(NSAIDs)と呼ばれるグループに属する、解熱鎮痛薬です。 ○このお薬は、痛み・炎症・発熱の原因物質「プロスタグランジン」の生成を抑え、痛みをやわらげ、熱を下げます。 ○このお薬は、次の目的で服用いただけます。 ●頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛 ●悪寒・発熱時の解熱
5	保健衛生上の危害を防止するために	このお薬を服用する前に、確認すべきことは？①  ポイント 以下の項目をチェックして、本品が服用できることをご確認下さい。 副作用(薬による有害な反応)として、胃・十二指腸潰瘍、重症喘息発作の誘発、発疹、むくみ等を起こす場合のあることが知られています。 詳しくは、【このお薬の服用中に気をつけなければならないことは？】をご参照下さい。 次の人はこのお薬を服用することはできません □ 15歳未満の小児 □ 過去に本剤に含まれる成分でアレルギー症状等の過敏な反応を起こしたことがある人 □ 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人 【ロキソプロフェンナトリウム水和物、アスピリン(アセチルサリチル酸)、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンが配合されている解熱鎮痛薬やかぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人】 □ 医療機関で次の治療を受けている人 ●胃・十二指腸潰瘍 ●肝臓病 ●腎臓病 ●心臓病 □ 医師から以下のような血液異常(血液の病気)を指摘されている人 ●赤血球数が少ない(貧血) ●血小板数が少ない(血が止まりにくい、血が出やすい) ●白血球数が少ない □ 出産予定日12週以内の妊婦 このお薬を服用する前に、確認すべきことは？②  ポイント 次の人はこのお薬を服用する際に注意が必要です。購入される前に医師、歯科医師又は薬剤師にご相談下さい。 □ 医師又は歯科医師の治療を受けている人 □ 妊婦(出産予定日12週以内の妊婦を除く)又は妊娠していると思われる人 □ 授乳中の人 □ 高齢者(65歳以上) □ 本人又は家族がアレルギー体質の人 □ 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人 □ 次の診断を受けた人 ●気管支ぜんそく ●潰瘍性大腸炎 ●クローン病 ●全身性エリテマトーデス ●混合性結合組織病 □ 次の病気にかかったことがある人 ●胃・十二指腸潰瘍 ●肝臓病 ●腎臓病 ●血液の病気 このお薬を実際に服用する前に、確認すべきことは？ ○本剤は、痛みや熱等の原因になっている病気そのものを治療するものではなく、発現している症状を抑えるお薬です。 したがって、症状がある場合だけ服用して下さい。 ○1～2回服用しても症状が一向によくなりえない場合は、他の疾患の可能性があるので医師、歯科医師又は薬剤師に相談して下さい。 ○長期連用しないで下さい。  ポイント 3～5日間服用しても痛み等の症状が繰り返される場合には、服用を中止し、医師の診療を受けて下さい。 ○本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい。 アスピリン(アセチルサリチル酸)、アスピリンアルミニウム、エテンザミド、イブプロフェン、アセトアミノフェン及びイソプロピルアンチピリンを配合している他の解熱鎮痛薬、かぜ薬及びアリルイソプロピルアセチル尿素、プロモバルビラル尿素を配合している鎮静薬 ○服用時は飲酒しないで下さい。 【服用後2時間以内のアルコール摂取及びアルコール摂取時の服用は避けて下さい。】 このお薬の服用中に気をつけなければならないことは？ ○このお薬のような解熱鎮痛薬を服用した後、過度の体温低下、虚脱(力がでない)、四肢冷却(手足が冷たい)等の症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には、直ちに服用を中止し、医師、歯科医師又は薬剤師にご相談下さい。  ポイント ○このお薬を服用した後、消化性潰瘍(胃もたれ、胸やけ、背中痛み)、むくみがあらわれた場合には、直ちに服用を中止し、説明文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談して下さい。また、まれに消化管出血(血を吐く、悪心・嘔吐、腹痛、黒いタール状の便、血便等があらわれる)、消化管穿孔(消化管に穴があくこと。悪心・嘔吐、激しい腹痛等があらわれる)の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。